

## 石川県子ども政策審議会第1回公聴会の開催結果（概要）

### 【概要】

日 時 令和5年9月27日（水）13：15～15：15  
 場 所 石川県庁11階 1109会議室（金沢市鞍月1丁目1番地）  
 テーマ 石川県で結婚・子育てをすることに対する意識の醸成について  
 参加者 大学生（5名）、石川県内で働いている若者（2名）  
 委員（16名）：大畑、奥野、釜土、川口、坂口、高木、田邊、中黒、新田、野口、  
 開、源、本谷、守、安田、横川 ※敬称略

### ○若者の結婚・出産に対する意識について

- ・ 出産の適齢期が23歳～30歳であるから、自分が仕事に慣れて、ある程度貯金できたころに結婚・出産をしたい。両親が若い頃に離婚しており、幸せな家庭に対する憧れが強く、結婚と出産を望んでいる。（大学生）
- ・ 20代は色々な事に挑戦して、30歳くらいでタイミングがあれば結婚したい。子どもの視点にはこちらが思ってもみない視点があり、学びになるので、将来子どもを持ちたいが、一生親として生きていく責任を負える時でないと、子どもを持つことに不安を感じる。（大学生）
- ・ 家族仲が良いため自分の家族を作りたい気持ち、結婚は一種の自立であるという考え、何より、好きな人と一緒にいたい気持ちから結婚したい。子どもが好きなことと、子育てへの憧れから、将来子どもは欲しい。（大学生）
- ・ 帰宅して大切な人がいることは幸せだし、好きな人と一緒にいたいから結婚したい。自分が一人っ子だったため、兄弟がいると家族が賑やかになると思いい、子どもが欲しい。（大学生）
- ・ 姉妹で2人暮らしをした際に、ストレスが溜まって体調を崩したことから、他人と暮らすことが想像できなくなり、結婚したくないと思うようになった。自分の両親は不仲であるが、母と、子どもの自分たちは良い関係が築けているし、周りにシングルマザーの方がいることから、「旦那さんがいない方が幸せ」という人が多いように感じる。自分だけの責任で、子どもを育て上げることが良いと感じるし、よく「旦那さんが長男」と言う方もいて、そのイメージがすごく強い。自分自身、子どもが好きで、子どもが生まれたとしても、すごく溺愛すると思うので、矛盾しているかもしれないが、子どもは欲しいが旦那はいらない。（大学生）
- ・ 早く自分の家族を持って、自立したいので結婚したい。子どもと年齢が近い方が、より子どもの目線で、子どもの気持ちに寄り添いやすいと思うし、子

どもがいる方がより幸せな家庭を築けると思うので、子どもは欲しい。(石川県内で働いている若者)

- ・今24歳で、もうしばらくは趣味や友達と遊ぶことにお金や時間を使いたいの  
で、30歳までには結婚したい。子どもと共通の趣味を楽しむことへの憧れ  
や、放課後児童クラブでバイトしていたこともあり、子どもは欲しいと思  
う。(石川県内で働いている若者)

### ○「あいきゅん」、「いしかわ縁結びマッチング」への意見について

- ・年齢層が高いので登録しない。偏見になるが、マッチングアプリに登録して  
いる人は信用できない。(大学生、石川県内で働いている若者)
- ・民間のマッチングアプリの方が知られているから、20代が流れていくと思  
う。知名度が上がれば、県内の登録者が増え、20代も増える。(大学生)
- ・民間のマッチングアプリは、恋人が欲しいというより遊びたいって人が  
多い印象であるが、「あいきゅん」は婚活重視だと思うので、そこをもっと強  
く推せば、登録者が増えると思う。(大学生)

### ○異性との出会い方への希望について

- ・自分が信頼できる友人、先輩・後輩、両親からの紹介の方が信用できるし、  
相談もしやすいので、マッチングアプリよりも紹介された人がいい。現状、  
紹介もされているので、相手への心配はあまりない。(大学生)
- ・アプリに偏見はないが、友達の延長線で付き合いたい価値観のため、友達や  
先輩の中、知り合いの紹介が一番ありがたい。(大学生)
- ・20代の意見として、将来結婚できるか・彼氏ができるかは、運とかタイミン  
グかなと思っている。「彼氏ほしい・結婚したい」と焦れば焦るほど、変な人  
を惹きつけてしまう傾向が高いと感じることがあり、望んでないけど普通に  
生活していると、ふらっと良い人が現れる子が自分の周りにも多く、変に焦  
りすぎると逆に良くない。(大学生)
- ・大学時代は、友達に紹介してもらったことがあったが、社会人になると、大学  
生ほど自由な時間が取れるわけでもないし、必ず同世代の人が職場にいる、  
紹介があるとは限らなくて、実際は、将来どうなるのかなという不安は結構  
ある。(石川県内で働いている若者)

## ○子育てに対する職場のサポートを就職の際に重視したか

- ・自分の就職先は「なでしこ銘柄」という、女性が活躍できる職場と認定されており、結婚・出産祝金、女性・男性の育休、提携を組んでいる保育施設もあるほか、時短勤務制度もある。自分自身が子どもを産みたい気持ちが強いいため、就職活動している中でも、特に子どもに関する福利厚生メインで考えた。(大学生)
- ・就職先を考える時は基本的に自分のやりたいことを優先して選んだが、就職する予定の企業では、ワークスライド制や時短勤務、子どもが発熱した時専用の休暇もあり、とても働きやすい環境であったことも決め手になった。福利厚生はたまたまついてきたものだが、大切だと感じる。(大学生)
- ・やりたいこと、給料、福利厚生、休日という面で就職活動をして、就職が決まった企業は、大企業の子会社ということもあり、やりたいことができるプラス「くるみん」にも指定されているので、もし子どもが生まれたとしても安心な企業だと思う。(大学生)

## ○石川県において男女で子育てをしていく上で大切だと思うことは

- ・夜泣きがひどくて耐えられない、何をしても子どもが泣いて、どうにかしてしまいそうという意見を聞いて、実家から離れて育児している母親に寄り添える機関があると、生むまでも生んでからの不安も拭われるので、母親の逃げ道を作ることが大事。(大学生)
- ・石川県は車での移動が多く、送り迎え等の負担もあるので、子育て支援をお金の面だけでなく、時間でも支援していく必要がある。(大学生)
- ・子育ては母親側の負担が大きくなることが多いだけでなく、母親は妊娠して子どもを10ヶ月抱えながら過ごすので、母親としての自覚や責任が父親よりも早く身につくが、父親は子どもが生まれてから父親になり、自覚や責任が芽生えるので、父親になる人の考え方を変えるような研修があればよい。(大学生)
- ・男性の妊婦体験や父親講座をもっと充実させることが、すぐにできる改善策だと思う。男性の育児・家事参画への意識には、相手の育ってきた環境にも影響があると思うので、それをこの時代に合わせてどう行動していくのか考えさせることが大事。(大学生)
- ・赤ちゃん訪問指導に伺った際にパパの育休について聞くと、「助かっている」と答える方と、「無駄に家にいるぐらいなら稼いできてほしい」という色々な

意見の方がいる。期間が大事かと言うとそうでもないし、育休を取った男性が家で何をできるか。会社からは「うちの会社は育休取れます。取ってください。」って言われるけど、育休を取って、こういう手助けをするといいという教育はされないの、そこを教えていくのが大切。(委員)

### ○結婚相手に対するイメージについて

- ・長男は家業を引き継いで、長男が両親の面倒を最後まで見るというイメージから、「長男だけはやめておけ」と昔から植え付けられている。(大学生)
- ・相手が長男や一人っ子ということ考えたことがなく、婿入りしてきた自分の親戚は、良好な親族関係を築けているので、関係ないと思う。(大学生)

### ○能登で結婚・定住する人が増えるために必要なことについて

- ・子どもが楽しめる遊び場があるか、交通が不便ではないかという点が移住する上で問題になる。(大学生)
- ・情報発信が必要。都会に住んでいる方が地方に来て保育園を体験してみる、親はその間リモートワークで仕事をする保育園留学をニュースで見て、すごく魅力的に感じた。能登は自然も豊かで子どもが伸び伸びして生活できるので、もっと能登の魅力を発信していけばいい。(大学生)
- ・金沢駅等の駐車代や車のレンタカー代を割引して移住させることや、白山イオンなどの大きな事業を能登に引っ張ってくるといい。せっかくいい温泉があるが、何がすごいのか伝わってないので、今時の子が検索に使うTikTokやインスタをやってみるといい。(大学生)
- ・七尾市でも過疎化や少子高齢化が進み過ぎていて、いろんなお店がなくなって明るい未来が見えない。人が増える見込みが今のままではない。石川県で旅行しようとしても、金沢で止まったりするので、能登の魅力を伝えきれてないと思う。認知してもらうことがまず初めの第一歩で、インターネットやSNSで活動をしたり、車社会の能登で、高騰しているガソリン代を安くしたりという政策があればいい。(大学生)
- ・全国展開している企業が拠点を能登に構えてくれれば、もっと働き手も増えて、定住してくれると思う。(石川県内で働いている若者)